

令和4年度河川水質調査の結果報告

村では環境保全の状況確認のため、9月と1月の2回、谷太郎川、小鮎川、及び金翅川の3河川（5カ所）の生活環境の保全に関する、基本的な測定項目の調査を実施しています。

調査の結果、PH、BOD、SS、DOの項目全てにおいて、環境基準に通じた数値を計測しました。

大腸菌数の数値は、片原橋と御門橋で基準値を超えています。気温や河川の水質、鳥獣のふん尿、生活排水の流入などさまざまな要因があり、今回の大腸菌数の調査結果は、BODやSSの濃度が低いことから、土壌や植物などの自然界に由来する菌種が多く検出されたものと考えられます。



調査項目		実施日	PH	BOD (単位:mg/ℓ)	SS (単位:mg/ℓ)	DO (単位:mg/ℓ)	大腸菌群数 (単位:CFU/100mℓ)
採水場所	谷太郎川 水の尻沢橋	令和4年9月14日	7.7	0.2	<1	9.9	25
		令和5年1月19日	7.6	0.1	<1	10.7	3
小鮎川	原下地区	令和4年9月14日	8.0	0.2	<1	10.0	230
		令和5年1月19日	7.9	0.2	<1	12.7	160
	片原橋	令和4年9月14日	7.9	0.6	1	9.6	520
		令和5年1月19日	7.9	0.8	1	11.8	62
	寺鐘橋	令和4年9月14日	7.9	0.7	2	9.4	180
		令和5年1月19日	7.8	1.7	2	12.3	51
金翅川	御門橋	令和4年9月14日	8.2	0.2	<1	9.8	610
		令和5年1月19日	8.2	0.7	1	12.3	68
基準値 (目標値)			6.5~8.5	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	300CFU/ 100mℓ以下

- 記号「<」は、定量下限値未満であることを表します。
- 小鮎川は水域類型Aを、谷太郎川と金翅川は環境基準が定められていないため、2河川の流入先である小鮎川の水域類型Aを目標値としています。
- 基準値を超える数値は太字で表記しています。
- 川に入ったときは、手足や体を石けんを使って十分に洗いましょう。

調査項目の解説	
PH(水素イオン濃度)	PH7が中性で、それより数値が大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
BOD(生物化学的酸素要求量)	水のきれいさを示す代表的数値。数値が低いほど良い。
SS(浮遊物質)	数値が低いほど濁りが少なく、透明度が高い。
DO(溶存酸素量)	数値が高いほど酸素量が多く、汚染源となる有機物が少ないため、数値が高いほど良い。
大腸菌群数	主にふん便汚染に由来する細菌の数を示す数値。数値が低いほど良い。